目から鱗 BOOK

夏への扉

R・A・ハインライン

1970年のロス・アンジェルス。主人公ダンは、家庭用ロボットを開発し、それをもとに企業を起こし順風満帆な生活を送っていた。恋人のベルとの結婚も間近に控え、何の問題もない日々。しかし、親友で共同経営者であるマイルズと経営方針を巡って対立。彼と結託したベルの裏切りによって会社を追い出され、全てを失ってしまう。

自暴自棄になったダンは冷凍睡眠で30年間の眠りにつく決意をするが、直前で考えを改め、２人から会社を取り戻そうとする。２人に詰め寄るダンだったが返り討ちにあい、麻薬を打たれて意識不明のまま冷凍睡眠に送りこまれてしまう。

ダンが目覚めたのは、技術が発展を遂げ、様々な社会問題をうまく解決した世界だった。未来の世界にうまくなじんだダンは、マイルズとベルのその後を調べようとするのだが――

今回紹介する『夏への扉』は、ＳＦファンの心をずっとつかみ続けて放さない作品だ。その理由は作者が描くこの物語の明るさ、さわやかさにあるのだろう。例えば、失意の中、主人公は勝手に未来に送りこまれてしまうのだが、彼が最初にすることはといえば、未来の技術を見て自分のものにすることだ。犯人達に詰め寄るよりも先にこんなことをするのだから、ただものではない。

また、ＳＦの魅力は想像の世界をどれほど現実的に語るかというところにあるが、作者であるR・A・ハインラインはこの点でも成功している。作品中の西暦2000年では、人類は人口問題に都市計画や原子炉の改良により対応し、重力の制御法さえも見つけだしている。まるで夢物語のような世界だが、作者は現実味を失わせることなく見事に描ききっている。

文中にこんな一節がある。

――***未来は、いずれにしろ過去にまさる。誰がなんといおうと、世界は日に日にまさりつつあるのだ。***

主人公のモノローグにしか過ぎないが、この姿勢は物語のあらゆる場面で貫かれている。未来を見つめる作者のまなざしの強さを、ぜひ感じ取ってほしい。

（蝸牛）

福島正実訳
早川書房／定価640円

かんたんCooking

真夏のなすカレー

Curry in Hot Summer

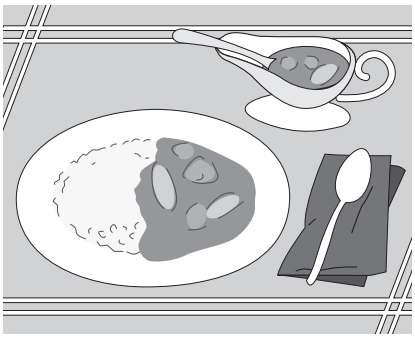
材料（４人分）

ミンチ肉	300g
なす	３本
たまねぎ	１個
にんじん	１本
トマト缶（ホール）	300g
カレールゥ	100g
コンソメ（またはブイヨン）	１個
※顆粒タイプの場合、小さじ２	
水	200cc

①たまねぎとにんじんはみじん切りにし、なすは１cm角、トマトは食べやすい大きさに切る。

②ミンチ肉・なす・たまねぎ・にんじんを順に炒めて、火が通ったら弱火にする。

③トマト・刻んだカレールゥ・コンソメ・水を加え、ルゥとコンソメが溶けるまで煮込む。



はみだしすてーじ

夏休みの2週間を切り取って、６，７月に散りばめてくれませんか。くれますよね？　くれるんでしょ？　くれなさい！　くれろ!!

（農・３　楠）

⇒風邪、インフル、冠婚葬祭。組み合わせれば休日は∞

（僕らの可能性は∞；編）